



2023年6月29日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 W T O K Y O  
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 村 上 範 義  
 (コード番号：9159 東証グロース市場)  
 問 合 せ 先 取 締 役 CFO 兼 経 営 戦 略 統 括 局 長 藤 本 冬 海  
 ( TEL. 03-6419-7165)

**東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ**

当社は、本日、2023年6月29日に東京証券取引所グロース市場に上場いたしました。今後とも、一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2023年6月期（2022年7月1日から2023年6月30日）における当社の業績予想は、次のとおりであります。

また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【個別】

(単位：百万円・%)

項 目	決算期	2023年6月期 (予想)			2023年6月期 第3四半期累計期間 (実績)		2022年6月期 (実績)	
		対売上 高比率	対前期 増減率		対売上 高比率		対売上 高比率	
売 上 高		3,546	100.0	71.7	3,221	100.0	2,065	100.0
営 業 利 益		598	16.9	537.5	734	22.8	93	4.5
経 常 利 益		575	16.2	554.6	725	22.5	87	4.3
当 期 ( 四 半 期 ) 純 利 益		423	11.9	228.7	435	13.5	128	6.2
1株当たり当期(四半期)純利益		172円70銭			178円05銭		53円54銭	
(参考)調整後営業利益				762		857		257
(参考)調整後当期(四半期)純利益				559		607		292
1株当たり配当金		0円00銭			—		0円00銭	

- (注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりません。  
 2. 2022年6月期(実績)及び2023年6月期第3四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。2023年6月期(予想)の1株当たり当期純利益は公募株式数(120,000株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出しております。  
 3. 2023年3月4日付で、株式1株につき20株の株式分割を行っております。上記では、2022年6月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純利益を算出しております。  
 4. 調整後の営業利益と当期(四半期)純利益は、当社固有の事情により発生している商標権償却額及びのれんの償却費の影響を除外しており、投資家が当社の業績を評価するために有用であると考えられる財務指標であります。

## 【2023年6月期業績予想の前提条件】

### (1) 当社の見通し

当社は、「すべてのヒト・モノ・コト・地域が輝く世界をつくる」というビジョンを掲げ、TOKYO GIRLS COLLECTIONのブランドを活かした独自のプロデュースノウハウを軸に、ヒト・モノ・コト・地域のまだ見ぬ価値を共創し、その価値を最大化させることをミッションとして事業を展開しております。

当社は、ブランディングプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメント情報は記載せず、主要なサービス領域について記載しております。

#### ①TGCプロデュース領域

当社は、毎年春と秋に開催するTOKYO GIRLS COLLECTIONにおいて主として協賛金収入、チケット販売による収入及びブランド出展料収入を得ております。また、TOKYO GIRLS COLLECTIONの企画・ブランド力を活かした地方都市での開催、SDGs推進を始めとするシティプロモーション等を展開しており、地方自治体からも収入を得ております。これらを通じて、また、これらで培ったノウハウを活かして、プロモーション機会の提供、企業のPRコンサルティング、コンテンツ制作、タレントキャスティング等を行っております。

#### i) TOKYO GIRLS COLLECTION

当社主力ブランドのTOKYO GIRLS COLLECTIONは常に最先端のテクノロジーや最旬のトレンドを取り入れたキャスティング・コンテンツプロデュースにより、日本のリアルクローズを披露するファッションショーをはじめ、豪華アーティストによる音楽ライブや、旬なインフルエンサーが多数登場するスペシャルステージ、話題のアイテムにタッチアンドトライできるブースなどを組み合わせた、青年層に対する発信型プラットフォームです。特定のメディアやコンテンツ等に左右されないビジネス展開により、来場者及びオンライン配信の視聴者、各種メディアによるその拡散力を活用し、企業や地方自治体・官公庁に対しプロモーション・コンテンツプロデュースの機会を提供する対価としての協賛金収入を主たる収益源として運営しております。また、青年層等の個人顧客に対し、ライブ・エンタテインメントの体験を提供し、チケット収入を得ており、アパレルブランド企業に対しファッションショー出展によるプロモーションの機会を提供する対価としてのブランド出展料収入を得ております。

#### ii) TOKYO GIRLS COLLECTIONの地方開催

TOKYO GIRLS COLLECTIONの企画力・ブランド力を活かし、地方都市でTOKYO GIRLS COLLECTIONを開催しております。企業からの協賛金収入及び開催地の道府県・市町村からの開催に伴う対価を主たる収益源として運営しております。当社は、東京をはじめとする主要都市と地方都市の間に存在する「体験格差」及び地域における発信力の課題の重要性に着目し、そのソリューションとして、コンテンツ企画力・発信力を有するTOKYO GIRLS COLLECTIONのプロデュースにより、その地域・企業が有する財産を、ステージ・ブース等を利用してコンテンツ化し、体験の機会及び日本全国に対する発信の場を提供しております。地方で開催するTOKYO GIRLS COLLECTIONは、地方自治体、商工会議所、地場の有力企業等と横断的に連携し、市民参加型の企画・地元商業施設との連動等、地域の活性化に貢献できる仕掛けを企画することで、経済効果を創出しています。更に、過去の開催実績から自治体ごとの課題やニーズに応じた企画の立案が可能であり、他の地方都市への展開の再現性が高い事業モデルといえます。

#### iii) その他シティプロモーション

今後の日本は首都一極集中のリスクに備えるため、地方が有する社会課題を解決し、青年層の力で地域を活性化させ地域独自の価値を高めていくニーズが増すと当社は分析しています。当社は、TOKYO GIRLS COLLECTIONで培った発信力・企画力をもとに、TOKYO GIRLS COLLECTIONのプラットフォーム以外でも、各自治体のニーズやサイズに応じたプラン、たとえば観光PRムービーの制作、地域の名産品のブランド化やプロモーション、地元イベントのプロデュース等で地域活性化のソリューション提供を行っており、地方自治体から受託収入を得ております。

## ②コンテンツプロデュース・ブランディング領域

TOKYO GIRLS COLLECTIONで培った企画力・ブランド力を活かし、顧客のニーズに合う商材のブランディングを行うため、トップインフルエンサーやアーティストを広告塔としてキャスティングすることに加え、新たなクリエイティブの企画を行うことにより、広告キャスティング収入やクリエイティブ制作収入を得ております。

その他、TOKYO GIRLS COLLECTIONのブランドと他のモノ・コトとコラボレーションし、スクール事業・オーディション事業ティーン世代向けのイベントプロデュース・オリジナル商品の開発等を展開しております。事業の特性に応じ、協賛金収入やブランドロイヤリティを受領しております。

## ③デジタル広告領域

### i) アフィリエイトwalker

アフィリエイトプラットフォームとして、アフィリエイト・サービス・プロバイダー (ASP) である「アフィリエイトwalker」を展開し、広告代理店としての手数料収入を得ております。

### ii) girlswalker

当社の主力ブランドであるTOKYO GIRLS COLLECTIONの公式メディアとして、「girlswalker (ガールズウォーカー)」 (<https://girlswalker.com/>) の運営を行っております。当サイトは、最旬のエンタメ情報を中心にファッション、ライフスタイル、SDGs等の最新トレンドを発信するメディアとして企業広告のプロモーションを行い、広告収入を得ております。

このような状況の下、2023年6月期は新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の制限が徐々に緩和されてきたことから、2022年9月、2023年3月のTOKYO GIRLS COLLECTIONの東京開催を有観客で開催でき、また、約3年ぶりとなるTOKYO GIRLS COLLECTIONの地方開催も3都市にて開催できたこと等から、2023年6月期の業績予想は、売上高3,546百万円（前期比71.7%増）、営業利益598百万円（前期比537.5%増）、経常利益575百万円（前期比554.6%増）、当期純利益423百万円（前期比228.7%増）となる見込みであります。なお、当該予想数値は、2023年3月までの実績数値に2023年4月以降の予測値を加算して作成したものであり、2023年5月18日の取締役会にて決議を行っております。

## (2) 売上高

売上の取引形態ごとに、過去実績・計画段階において受注している契約等の情報に基づき、売上高を算出しています。

### ①TGCプロデュース領域

#### i) TOKYO GIRLS COLLECTION

年度予算策定時においては、協賛金収入・制作費収入・チケット販売による収入・ブランド出展料収入・その他に分類し、直近の開催回の実績を踏まえた売上のベースケースを算出したうえで、開催会場の設計状況や直近の営業状況を踏まえ算出しました。2023年6月期は、すでに2022年9月のAUTUMN/WINTER、2023年3月のSPRING/SUMMERの2開催分が実績として業績予想値に織り込まれております。

#### ii) TOKYO GIRLS COLLECTIONの地方開催

年度予算策定時においては、行政からの収入・民間企業からの協賛金収入・制作費収入・チケット販売による収入・ブランド出展料収入・その他に分類し、直近の開催回の実績を踏まえた売上のベースケースを算出し、開催地域によって集客規模、会場のサイズ及び行政予算が異なるため、地方に応じた規模をそれぞれ反映しました。2023年6月期は、すでに2022年11月のTGC KITAKYUSHU 2022、2023年1月のSDGs推進 TGC しずおか 2023、2023年2月のTGC WAKAYAMA 2023の3開催分が実績として業績予想値に織り込まれております。

#### iii) その他シティプロモーション

年度予算策定時においては、受注済み又は受注予定の契約に基づき、契約内容に応じて、サービス提供の時期に契約額を配分する方法にて売上を算出しました。2023年6月期は、2022年10月のSDGs FES in EDOGAWAの企画を中心とする東京都江戸川区に対するシティプロモーション、山梨県のシティプロモーションを目的とする2022年10月のTGC FES YAMANASHI 2022、神奈川県足柄下郡湯河原町の天然資源である温泉を活用した商品のプロデュース及びプロモーションの実施が実績として業績予想値に織り込まれております。2023年5月に実施予定のTGC teen ICHINOSEKI 2023については、行政からの収入98百万円を見込んでおります。

この結果、TGCプロデュース領域の売上高は2,630百万円（前期比85.7%増）と見込んでおります。特に2022年6月期においてはTOKYO GIRLS COLLECTIONの地方開催の実績がなかったことや、山梨県や一関市等の新たなシティプロモーション案件の増加により売上高が増加しています。

#### ②コンテンツプロデュース・ブランディング領域

顧客のニーズに適う商材のブランディングを目的として、トップインフルエンサーやアーティストを広告塔としてキャスティングすることに加え、新たなクリエイティブの企画を行うことにより、広告キャスティング収入やクリエイティブ制作収入を得ております。このようなブランディング・プロデュースについては、広告出演契約と制作業務受託契約から構成される受注済み又は受注予定の広告出演契約に基づき、肖像使用期間（概ね半年又は1年）にわたって契約額を配分する方法、制作業務受託契約については、制作納期と制作内容が概ね一定化されていることから、直近1年程度の実績に基づく平均受注金額を参考に納品予定時期に計上する方法にて売上を算出しました。

その他、ロイヤリティを受領するサービスについては、予算策定時点の契約状況及びイベント等開催予定に基づき、算出しました。

この結果、コンテンツプロデュース・ブランディング領域の売上高は、ブランディング・プロデュースの案件増加により、813百万円（前期比56.1%増）と見込んでおります。

#### ③デジタル広告領域

##### i) アフィリエイトwalker

計画策定時における直近半年程度の過去実績に基づく平均成果単価に平均成果件数を乗じて総額ベースの売上高を算出し、直近半年程度の過去平均の売上原価率を乗じて売上原価相当額を算出のうえ、売上原価相当額を純額表示させる方法で算出しました。

##### ii) girlswalker

ネットワーク広告収入又はタイアップ広告収入の直近半年程度の過去実績に基づき算出しました。

この結果、デジタル広告領域の売上高は102百万円（前期比19.8%減）と見込んでおります。

以上の結果、売上高は3,546百万円（前期比71.7%増）を見込んでおります。なお、当社においては、TOKYO GIRLS COLLECTIONの売上規模が全体の売上に占める割合が大きく、開催の月の属する四半期（第1四半期、第3四半期）に売上高が偏重する傾向があります。

### (3) 売上原価、売上総利益

売上の取引形態ごとに、過去実績等の情報に基づき、固定原価や変動原価率に基づき売上原価を算出しております。

#### ①TGCプロデュース領域

##### i) TOKYO GIRLS COLLECTION

年度予算策定時においては、開催にあたって必ず要する固定費要素の高い全体制作費（運営費・舞台制作費・会場費・キャスティング費・その他経費）、顧客の求めに応じて制作費収入を受領する場合に個別に要する変動費要素の高い個別制作費（ブース設置費・協賛ステージだけに出演するゲストの出演費・特殊演出費等）、券売手数料、ブランドショーステージに係る原価（スタイリスト稼働費等）に分類し、直近の開催回の実績及び業務委託費の基礎となる昨今の人件費の高騰等を踏まえて算出しました。

##### ii) TOKYO GIRLS COLLECTIONの地方開催

年度予算策定時においては、開催にあたって必ず要する固定費要素の高い全体制作費（運営費・舞台制作費・会場費・キャスティング費・東京近郊からの渡航費・その他経費）、顧客の求めに応じて制作費収入を受領する場合に個別に要する変動費要素の高い個別制作費（ブース設置費・協賛ステージだけに出演するゲストの出演費・特殊演出費等）、券売手数料、ブランドショーステージに係る原価（スタイリスト稼働費等）に分類し、直近の開催回の実績及び業務委託費の基礎となる昨今の人件費の高騰等を踏まえて算出しました。

iii) その他シティプロモーション

受注済み又は受注予定の契約に基づき、当社の企画に係る社内人件費相当の利益及び直近1年程度の実績を勘案して、制作会社又は協力会社等への発注予算を算出しました。

この結果、TGCプロデュース領域の売上原価は1,560百万円、売上総利益は1,069百万円（前期比86.5%増）と見込んでおります。

②コンテンツプロデュース・ブランディング領域

広告出演契約と制作業務受託契約から構成されるブランディング・プロデュースについては受注済み又は受注予定の広告出演契約に基づき、肖像使用期間にわたって契約額を配分する方法、制作業務受託契約については、制作納期と制作内容が概ね一定化されていることから、直近1年程度の実績に基づく平均発注金額を参考に納品予定時期に計上する方法にて売上を算出しました。

この結果、コンテンツプロデュース・ブランディング領域の売上原価は434百万円、売上総利益は378百万円（前期比73.9%増）と見込んでおります。

③デジタル広告領域

i) アフィリエイトwalker

広告主より得る売上高に対し、当社の手数料相当分を控除して、広告掲載メディアに対して媒体費として売上原価を支払っています。直近半年程度の過去実績に基づき売上原価相当額を算出しますが、会計上は代理人としての立場で取引を実施しているとの整理で、手数料相当額のみが売上として表示されるよう、売上原価を売上高から差し引きますので売上原価はゼロとして設定しています。

ii) girlswalker

直近半年程度の過去実績に基づき、売上の多寡にかかわらず、編集部運営に係る費用（保守費・ライターやカメラマンの委託費等）が固定的に要している実績に鑑み、固定原価として策定いたしました。

この結果、デジタル広告領域の売上原価は12百万円、売上総利益は90百万円（前期比25.1%減）と見込んでおります。

以上の結果、売上原価2,007百万円、売上総利益1,538百万円（前期比68.8%増）を見込んでおります。

(4) 販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費は、主に人件費、償却費、業務委託費、その他経費により構成されております。

人件費は、役員報酬、給与、賞与、法定福利費等の人件費であり、直近の実績及び人員計画に基づき、算出しております。償却費は、減価償却費、商標権償却費、のれん償却費であり、現存する資産の耐用年数に基づき算出しております。業務委託費は、直近の業務委託契約を踏まえ、TGC（東京開催・地方開催）の開催月近辺の季節的変動を加味し、算出しております。その他経費につきましては、概ね固定費であるため、直近の実績に基づき算出しております。

以上の結果、販売費及び一般管理費は939百万円（前期比14.9%増）、営業利益は598百万円（前期比537.5%増）を見込んでおります。なお、当社においては、TOKYO GIRLS COLLECTIONの売上規模が全体の売上に占める割合が大きく、一方で、販売費及び一般管理費は毎月概ね固定的に発生するため、開催の月の属する四半期（第1四半期、第3四半期）に営業利益の水準が高くなる傾向があります。2023年6月期における第4四半期会計期間（2023年4月から2023年6月まで）は営業損失となる見込みです。

(5) 営業外損益、経常利益

営業外収益は、自販機取扱手数料収入及び助成金を見込んでおり、営業外費用は、主に借入金に係る支払利息を見込んでおります。

以上の結果、経常利益は575百万円（前期比554.6%増）を見込んでおります。

(6) 特別損益、当期純利益

特別損益は見込んでおりません。また、法人税等については、利益計画に基づいて算出しております。

以上の結果、2023年6月期の当期純利益は423百万円（前期比228.7%増）を見込んでおります。

**【業績予想に関するご留意事項】**

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合がございます。



## 2023年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年6月29日

上場会社名 株式会社W TOKYO 上場取引所 東  
 コード番号 9159 URL https://www.w-tokyo.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 村上 範義  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO兼経営戦略統括局長 (氏名) 藤本 冬海 TEL 03-6419-7165  
 四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年6月期第3四半期の業績 (2022年7月1日～2023年3月31日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第3四半期	3,221	-	734	-	725	-	435	-
2022年6月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第3四半期	178.05	-
2022年6月期第3四半期	-	-

- (注) 1. 2022年6月期第3四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、2022年6月期第3四半期の業績及び2023年6月期第3四半期の対前年同四半期増減率を記載しておりません。  
 2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。  
 3. 当社は、2023年3月4日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っております。当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第3四半期	3,502	968	27.7
2022年6月期	2,497	521	20.9

(参考) 自己資本 2023年6月期第3四半期 968百万円 2022年6月期 521百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	-	-	-	0.00	0.00
2023年6月期	-	-	-	-	-
2023年6月期 (予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年6月期の業績予想 (2022年7月1日～2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,546	71.7	598	537.5	575	554.6	423	228.7	172.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年6月期3Q	2,468,000株	2022年6月期	2,418,000株
② 期末自己株式数	2023年6月期3Q	一株	2022年6月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年6月期3Q	2,447,927株	2022年6月期3Q	一株

(注) 1. 当社は、2022年6月期第3四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2022年6月期第3四半期の期中平均株式数を記載していません。

2. 当社は、2023年3月4日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 1「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	1
(1) 経営成績に関する説明 .....	1
(2) 財政状態に関する説明 .....	1
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	1
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	2
(1) 四半期貸借対照表 .....	2
(2) 四半期損益計算書 .....	3
第3四半期累計期間 .....	3
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	4
(継続企業の前提に関する注記) .....	4
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	4
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	4
(セグメント情報等) .....	4

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、経済活動の制限も徐々に緩和され、人流や経済も回復基調にあります。一方で、急激な為替変動、エネルギーや原材料の価格高騰に起因する物価上昇等により、企業業績や個人消費の動向は不透明な状況が継続しております。このような環境の中、当社では、2022年9月と2023年3月に「TOKYO GIRLS COLLECTION」を有観客で開催し、協賛企業数の増加や来場チケットの完売等により収益性の向上に貢献いたしました。また、2022年10月に山梨県の魅力を全国に発信する「TGC FES YAMANASHI 2022」や東京都江戸川区のSDGs推進活動を区内外に発信するための「SDGs FES in EDOGAWA」、2022年11月に「TGC KITAKYUSHU 2022 by TOKYO GIRLS COLLECTION」(以下、「TGC北九州 2022」)、2023年1月に「SDGs推進 TGC しずおか 2023 by TOKYO GIRLS COLLECTION」(以下、「TGCしずおか 2023」)、2023年2月に「oomiya presents TGC WAKAYAMA 2023 by TOKYO GIRLS COLLECTION」(以下、「TGC和歌山 2023」)をそれぞれ有観客で開催し、TGC地方開催やシティプロモーションも活性化しております。その他、タレントキャスティングとクリエイティブ制作を組み合わせた顧客の商材のブランディングプロデュースサービスによる売上やTOKYO GIRLS COLLECTIONを活用したブランドロイヤリティの受領等により、売上・利益ともに堅調に推移しました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高3,221百万円、営業利益734百万円、経常利益725百万円、四半期純利益435百万円となりました。また、当社の経営方針、経営戦略・経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標としている調整後営業利益は857百万円、調整後四半期純利益は607百万円となりました。なお、調整後営業利益、調整後四半期純利益については、PwC京都監査法人の四半期レビューを受けておりません。

当社では、TOKYO GIRLS COLLECTIONの売上規模が全体の売上に占める割合が大きく、開催の月の属する四半期(第1四半期、第3四半期)に売上高及び売上総利益が偏重する傾向があります。一方で、販売費及び一般管理費は固定的に発生するため、営業利益も第1四半期及び第3四半期において最も高くなる傾向があります。

当社は、ブランディングプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載はしておりません。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末と比較して1,004百万円増加し、3,502百万円となりました。これは主に、税引前四半期純利益724百万円から長期借入金(1年内返済予定を含む)127百万円の約定返済、短期借入金50百万円の返済等を除いた現金及び預金474百万円の増加、2023年3月開催の「TOKYO GIRLS COLLECTION」の収入等による売掛金及び契約資産756百万円の増加及び、商標権68百万円、のれん54百万円の償却による減少によるものであります。

#### (負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末と比較して556百万円増加し、2,533百万円となりました。これは主に、2023年3月開催の「TOKYO GIRLS COLLECTION」の外注費等による買掛金390百万円の増加、税引前四半期純利益の計上に伴う見積実効税率を用いて計算した未払法人税等287百万円の増加及び、長期借入金(1年内返済予定を含む)127百万円の約定返済、有利子負債依存度の削減を目的とした短期借入金50百万円の返済による減少によるものであります。

#### (純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末と比較して447百万円増加し、968百万円となりました。これは、新株予約権行使による資本金5百万円及び資本準備金5百万円の増加、四半期純利益435百万円の計上によるものであります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、本日公表いたしました「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。なお、当該業績予想については、2023年6月29日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,004,299	1,478,618
売掛金及び契約資産	229,863	985,980
前渡金	145,179	98,462
その他	82,197	27,349
貸倒引当金	△2,961	△2,961
流動資産合計	1,458,578	2,587,449
固定資産		
有形固定資産	32,120	26,822
無形固定資産		
のれん	303,123	248,561
商標権	543,793	475,634
その他	32,361	37,122
無形固定資産合計	879,279	761,317
投資その他の資産	127,586	126,422
固定資産合計	1,038,987	914,563
資産合計	2,497,565	3,502,012
負債の部		
流動負債		
買掛金	167,784	558,051
短期借入金	100,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	164,445	145,141
リース債務	12,029	12,029
未払法人税等	530	288,212
前受金	276,674	295,685
賞与引当金	22,018	8,194
その他	82,082	142,399
流動負債合計	825,563	1,499,712
固定負債		
長期借入金	1,133,824	1,025,445
リース債務	17,041	8,019
固定負債合計	1,150,865	1,033,464
負債合計	1,976,429	2,533,177
純資産の部		
株主資本		
資本金	40,000	45,925
資本剰余金	352,185	358,110
利益剰余金	128,951	564,799
株主資本合計	521,136	968,835
純資産合計	521,136	968,835
負債純資産合計	2,497,565	3,502,012

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)
売上高	3,221,744
売上原価	1,815,527
売上総利益	1,406,217
販売費及び一般管理費	671,421
営業利益	734,795
営業外収益	
受取利息	11
受取手数料	66
その他	0
営業外収益合計	78
営業外費用	
支払利息	5,452
遅延損害金	1,522
上場関連費用	2,000
その他	806
営業外費用合計	9,781
経常利益	725,091
特別損失	
投資有価証券評価損	1,028
特別損失合計	1,028
税引前四半期純利益	724,063
法人税等	288,214
四半期純利益	435,848

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間において、新株予約権の行使に伴い、資本金が5,925千円、資本準備金が5,925千円増加しております。この結果、当第3四半期会計期間末において資本金が45,925千円、資本準備金が45,925千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

当第3四半期累計期間(自2022年7月1日至2023年3月31日)

当社は、ブランディングプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載はしていません。